

## 第4回 竹原市総合計画審議会

日時：平成30年10月29日（月）10:00～11:20

場所：竹原市役所 3階 第1・2委員会室

### 1 開会

### 2 議題

#### (1) 基本構想案について

事務局 （基本構想案について説明）

会長 前回の審議会での意見や指摘事項を受けての対応、また、将来都市像について、中学生の意見を踏まえ、わかりやすく取りまとめたと思うが、疑問点等があれば意見をお願いしたい。

委員 5ページ「①人を活かす」の「若者や女性、高齢者、障害者、外国人」と並んで書かれている。「若者、高齢者、障害者、外国人」と並べて書くのはわかるが、「若者、高齢者」の間にあえて「女性」を入れているのはどうなのか。男性視点になっており、女性＝弱者のような表現になっているようで違和感がある。

事務局 「女性」を表記したのは、性的な差異で弱者として位置づけたわけではなく、政府の女性活躍、女性の社会進出も進んでいる中で、本市においても女性活躍を促進していく必要があることを踏まえ、「女性」と記載している。「女性」と記載している件について、いろいろな見方や感じ方があると思うので、委員がどう考えているか、意見を聞きたい。

委員 現在、国の政策で女性の社会進出や男女共同参画社会の部分で女性が取り上げられている。その背景には、経済を支える女性が必要だという観点で、子育てを担う女性という形から経済を支える女性へと変化している。その中で、女性の声が本当に反映されているかどうかは疑問であり、女性の立場や女性の発言が反映されているのかと考えたとき、社会を構成し、社会を支える一員として、声を出せる女性は少ない。今の時代だからこそ、「女性」を明記する必要があると考える。

委員 「若者、女性」が同じグループになっているのはどうだろうか。「若者、高齢者」を同じグループとする方が良いと考える。

委員 この部分は、短く端的に表現しているため、誤解を招きやすくなっているのではないかと思う。男性社会を前提にした女性を弱者ととらえたような表現となっている。誤解を受けないように、もう少し文章を増やし、「男女わけ隔てなく」などの表現を加えたほうが良いのではないか。

会長 委員の意見にあったように表現を一般化することが可能と考える。「男女わけ隔てなく」や「老若男女問わず」という表現も可能であると考え。この部分は、市のスタンスに関わる重要な部分と考える。

事務局 誤解が生じやすい表現になっているので、誤解を招かない表現に変更したい。

会長 細かいところにはなるが、主語・述語の関係がおかしい部分があるので、基本計画を含めて、再度見直しが必要である。

また、16ページの本文3行目「「10年後の将来像と目標像」として掲げる姿に近づける」とあるが、将来像を実現する途中で止まってしまう印象になっているので、「将来像の実現を目指します」といった積極的な表現に変更した方がよい。

事務局 消極的な表現になっているので、修正したい。

委員 目標像の実現に向け、ひとつの分野において、複数の分野が連携して取り組む必要があり、将来像ごと目標像ごとが縦割りになっている印象を受け、縦割りのように感じる。何らかの方法で横断的な取組に関する表現が必要ではないか。

事務局 横断的な分野は多々あると考えるので、縦割りに感じないような表現を検討していきたい。

## (2) 基本計画素案について

事務局 (基本計画素案について説明)

会長 基本計画素案について、それぞれの立場で関心のある分野に絞ってでも構わないので、指摘や意見をお願いしたい。

委員 復旧・復興プロジェクトについて、こういう被害があったということは、大切なことであるが、まちづくりを進めていくうえで、市民が安全・安心に暮らせることが大事である。西日本豪雨災害後、応急復旧工事を行っているものの、土砂崩れがそのままになっている箇所もあり、雨が降るたびに危険を感じる箇所がある。現状がいつ復旧されるかについて一切市民に伝わっていない。市民の人々からいつ復旧するのかと、質問されても誰も回答することができない。ある程度具体的に復旧の見通しを示すと、安心できると思う。逆にそれを示さないと良い計画があっても前に進まないと考える。

事務局 指摘のとおりであり、資料3の11ページに主な課題として、「(1) 住民生活の復旧に関するもの」、「(2) インフラ及び産業の復旧・復興」、「(3) 今後の災害発生に備えた体制づくり」の3点を整理した。今後、この3点の課題に対し、「7 復旧・復興に向けた今後の取組(調整中)」で、具体的にどのように復旧・復興を進めていくかということを示したい。復旧・復興について、スケジュールを含めて、現時点で調整中のため、今回の審議会では示すことができないが、次回の審議会では記載し示したい。

会長 プロジェクトの期間も空欄になっているが、次回の審議会で示すことでよいか。

事務局 次回の審議会でお示ししたい。

会長 重要な部分になるが、復旧・復興は将来都市像を達成するためのステップであり、復旧をしたうえで、復興していく、その時にこの基本計画が重要な役割を担う旨の記載ができればと考える。

委員 将来像2目標像2で「子育て前の支援」「子育て支援」と記載している

が、ネウボラなどの話題がよく審議会などで登場しているので、もう少し具体的に踏み込んだ内容にしてみてもどうか。

会長       ネウボラ自体は基本計画の中で出てくるが、基本構想の中に盛り込んでいくということか。

委員       子育て支援の分野で見たとき、親の立場から、例えば、子育てにもっと興味を持ってもらえるような表現があるのではないかと考える。「切れ目のない支援」という言葉があるが、具体的に何を示すのかが不明であるので、ある程度目に見える形があると親として安心感を得ることができ、子育てに満身できると考えている。

委員       資料3の竹原市基本計画素案の29ページでネウボラは竹原市の強みということがある程度は記載されているのだが、ネウボラの話をもう少し具体的に記載してはどうか。

委員       意見を踏まえ、もう少し検討をお願いしたい。

会長       基本計画素案の35ページ、「現状」の1行目、「保幼小」という表現はいかがなものか。「保幼小」という表現を理解できる人は理解できるが、「保育所」、「幼稚園」、「小学校」と丁寧に記載してはどうか。

41ページ「協働のまちづくり」で住民自治組織が重要であり、防災・減災等の災害時への対応についての記載を入れてはどうか。

47ページ「現状」の4行目「県平均と比較して市内総生産が低い」の中に「人口1人あたり」と記載が必要ではないか。

65ページ「現状」の5行目の「自助・互助・共助・公助」と並んでおり、「互助」と記載されているのは「現状」の5行目のみで、41ページの「現状」の10行目では「自助・共助・公助」となっているので、65ページの「互助」は削除しても良いのではないか。

77ページで家庭ごみの排出量が多いこと、リサイクル率が非常に低いことは誇れることではないので、原因は何なのか。

事務局     人口が減少し、家庭ごみ全体の量は減少しているものの、一人当たり家

庭ごみの出量が多いことが問題となっている。

会長 家庭ごみの排出量が多いことは誇れることではないので、身近なところから対策を進める必要がある。リサイクル率を上げれば一人当たりの家庭ごみの排出量が減少すると考えられるので、今後の対策の検討をお願いしたい。

委員 地域の実態でいうと、自治会、社会福祉協議会、女性会、老人クラブ等の各地団体の役員を同じ人が重複してやっているのが実態である。

協働のまちづくりや生涯学習など、地域づくりが市のテーマとなっているのであれば、個別分野にそれぞれに記載するのではなく、地域づくりに市が持っている公共施設を活用し、積極的に地域づくりをしていくという分野横断的に積極的に推進する方針を基本計画の中に打ち出してはどうか。

会長 非常に重要な指摘である。基本構想で住民自治組織を重視しながら自助・共助・公助の仕組みを作り上げ、最終的に竹原の将来像の共存につながる基盤となるといった記載を推進体制など記述する必要がある。

委員 基本計画の現状・課題から取組の方向性まで流れが綺麗にできている。客観的な成果指標が空欄になっているところがあり、取組の方向性とリンクするような数値目標にしていきたい。

会長 成果指標は次回の審議会までには記載されるのか。

事務局 整理して次回の審議会までには成果指標を記載したい。

委員 竹原市は産科医院がない状況である。以前、自分の妻が産気づいた際、竹原市に産科医院がないため、東広島市の病院まで連れて行ったことがあり、困った状況があった。産科医院がない状況の改善方策を記載してもらいたい。

事務局 市内の分娩施設が閉院してから年数が経ち、市民からも分娩施設を設置して欲しいという声をたくさん聞いており、この間、様々な対応は行ってきたが、出生数の関係で分娩施設を市内で維持することは非常に難しい現

状がある。まずはできることからやっていきたい。たとえば、妊婦健診等を市内で受けることができるようにしている。また、妊娠・出産に関する相談窓口を設置している。分娩施設については、非常に厳しい現状であるが、引き続き要望していきたい。

会長 病院がなく、厳しい環境であるということは理解できる。ただ基本計画では、「妊娠期以前から子育て期まで切れ目のない支援」を行うという表現になっているので、分娩施設がなくても、安心できるような記載をお願いしたい。

委員 小学校の統廃合により、遊休施設が増加している。遊休施設を地域センターや公民館などで活用するなど、今後の遊休施設の有効活用についてどこかで記載する必要があるのではないか。

事務局 まず、公民館については、地域交流センター化を検討しており、基本計画素案40ページの取組の方向性「生涯学習拠点・機会の充実」という項目で「地域ごとに配置する集会機能を持つ施設」と記述している。公民館と生涯学習は直結しており、集会機能を持つ施設ということで、具体的には公民館の機能を残し、来春の地域交流センター化を目指している。

基本計画策定の時期には公民館という文言が使用できない可能性もあるので、交流センターという表示でご理解をお願いしたい。

廃校施設の活用に関しては、老朽化している施設もある。生涯学習で活用するのか、教育分野で活用するのかなど、まだ方向性が決まっておらず、公共施設管理部門と連携して土地の活用といった部分で記載したいと考えている。

委員 41ページの「現状」のところでは、「公民館」と表現している。平成30年3月以降、公民館は交流センターとなると地域の説明会で受けたのだが、その後の説明があまりなされていない。交流センターの機能が各種団体の活動拠点になるということを聞いている。42ページ取組の方向性の「地域の活動拠点づくり」では、交流センターとは記載していない。も

し、交流センターが各種団体の活動拠点になるかどうかをはっきりしているのであれば、具体的に交流センターを拠点とするといったことを記載した方がよい。

事務局       ご指摘のとおり、全体の流れでは交流センター化を進めている。今後基本計画素案の中に地域交流センター（仮称）として記載したいと考えている。

会長        公共施設の維持管理やアセットマネジメントについての記載が弱いと感じる。基本構想案の16ページの「2 持続可能な行財政運営」で記載すべきではないか。

              基本構想の案と基本計画素案について最終の意見はあるか。

委員        基本計画の施策の方向性（分野）の記載と基本構想の目標像の姿との整合を取る必要があるのではないか。

事務局       基本計画は前期基本計画、後期基本計画と5年で見直しがなされる。前期基本計画を見直す際、基本構想を見直す場合は、議決を要することから、次回の審議会までには対応方針を示したい。

委員        今回の審議会では、それぞれの立場から全体のことを考えながら発言をいただくことができて良かった。一部細かい文言の整合性が取れていないので、文言の統一が必要である。

              分娩施設の誘致や交流センターの機能充実を実現するためには、市民がどのような行動すればいいのかという方向性を示すことができれば、市民の努力でも改善の見通しが立つのではないか。

会長        全て市役所に頼めば大丈夫というわけにはいかないのです、自助・共助・公助のバランスを図っていく必要がある。市民一人一人が将来像に向けて努力をしていくということを基本構想案の17ページの「3 市民協働と多様な主体との連携」の項目に記載すべきではないか。

### 3 閉会

以上